

太陽のてがみ

てがみには、住所・氏名・年齢・職業を記入してください。（広報掲載時に氏名は載りません。）なお、ひぼう・中傷や営利を目的とする内容は掲載しません。

補聴器への助成について



30代・男性

白糠町の子育て支援に魅力を感じて引越してきました。

以前暮らしていたところでは、中度難聴の子どもが使用する補聴器の資金に対しての助成があり、いろいろと助かっていたのですが、白糠町にはその助成制度が無いとお聞きしました。

子育て支援が充実している白糠町

ですので、もし可能であれば、身体障害者手帳の交付対象者とはならない中度難聴児に対して、補聴器の購入資金を助成していただけると助かります。ご検討をよろしくお願いします。

お答えします

白糠町を子育ての地として選んでいただきありがとうございます。

さて、補聴器の購入に係る費用ですが、身体障害者手帳（聴覚障害）の交付を受けている方には、国の法令に基づき購入費用の助成制度があります。「軽度・中等度の難聴者」への公的助成制度はありません。

先天性の難聴や幼児難聴は、早期から補聴器を活用して訓練すること、コミュニケーション能力が高まるなどといわれており、町としてもその重要性を深く認識しています。

現在、軽度・中等度の難聴があるお子さんの保護者に対して、補聴器の購入または修理に係る費用を助成する方向で準備を進めていますのでご理解をお願いします。

なお、助成の詳細については、決定次第お知らせします。

〈介護福祉課〉

地域おこし協力隊(情操教育指導者)のさらなる活躍を期待



70代・男性

広報しらぬか9月号で、地域おこし協力隊や地域活性化支援員があらゆる分野で尽力されていることを知りました。中でも情操教育に関わる地域おこし協力隊の存在は、全道・全国でもまれではないでしょうか。

情操教育指導者のお二人は、町内の各校で音楽や各教科の支援、そして昼休みなどを利用したミニコンサート開催などを行っておりますが、こうした学校教育に限らず、町内の音楽活動の活性化という、いわゆる社会教育の場でも活動していただくことが重要ではないかと思えます。

昨年11月に行われた「明日の青少年を考える集い」では、二人の演奏に対して来場者から喝采を博していたことを鮮明に記憶しています。

また、12月に開催された「オールしらぬかクリスマスコンサート」は、情操教育指導者の一人である山田陽子氏が実行委員会を組織し、コンサートを企画。そして自らも出演し、町内在住のピアノリストとチャイコフスキーの「花のワルツ」を連弾で披露してくれました。

町の音楽活動の活性化のため、地域おこし協力隊として着実に成果を残そうとしている姿に、町民として大変喜びを感じています。

今後も学校教育のみならず、社会教育の場でもさらなる活動の場を設けていただきたいと思います。

ふるさと納税で2年連続全国4位の白糠町は「町民の心を豊かにする情操教育」においても全道・全国的に注目される町となることを真に祈念しています。

お答えします

貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。この情操教育は、本物の音楽に触れ、その美しさや感動を直接味わうことで一人でも多くの情操豊かな子どもたちを育てることができるよう、今年度から二人の地域おこし協力隊員を採用し、新たに取り組んでいるものです。

今後も、音楽活動の活性化と併せて、子どもたちをはじめ多くの町民の皆さんが、音楽に触れることのできる機会を提供できるように努めていきます。

〈教育委員会〉